

租税法研究Ⅱ

選択 2単位

吉田 貴明

1. 授業の概要(ねらい)

租税法に関する判例を基礎として、各自が自身の研究成果を報告し、その内容について全員で議論します。租税行政のあり方や租税法規の解釈等、租税法上の具体的な論点を理解するとともに、これらを修士論文の執筆に活用していくことがねらいです。

2. 授業の到達目標

この科目は、租税法をめぐる「現代社会における諸問題に対する将来の具体的指針を見出していく」能力を修得することを目的とし、以下の2点を目標とします。

- ①租税法をめぐる判例研究を通じて、さまざまな優れた先行研究に触れ、各論点に関する最先端の議論を理解すること。
- ②資料の収集、論点の整理、学術的文章の書き方等、修士論文の執筆に必要な能力を向上させること。

3. 成績評価の方法および基準

演習への貢献度(報告の内容、議論への参加態度)により総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

中里実ほか編 『租税判例百選』 (有斐閣)

参考文献

中里実ほか編 『租税法概説』 (有斐閣)

浅妻章如=酒井貴子 『租税法』 (日本評論社)

金子宏 『租税法』 (弘文堂)

佐藤英明編著 『租税法演習ノート』 (弘文堂)

金子宏ほか編著 『ケースブック租税法』 (弘文堂)

佐藤英明 『スタンダード所得税法』 (弘文堂)

渡辺徹也 『スタンダード法人税法』 (弘文堂)

5. 準備学修の内容

報告者は、修士論文のテーマとこれに関連する判例を選定し、研究の成果を報告しなければなりません。

報告者以外の履修者は、指定された判例について、事案の概要、争点、判旨を整理し、議論への参加の準備を行う必要があります。

6. その他履修上の注意事項

- ①テキスト・参考文献については、いずれも最新版を用意してください。
- ②コンパクトサイズの六法には、租税法規が掲載されていません。そのため、『租税法判例六法』等の租税法規が掲載されている文献を持参したり、インターネット等で閲覧する準備をするなど、適宜条文を参照できるような態勢を整えてから授業に臨んでください。
- ③「租税法研究Ⅰ」を履修したことを前提に授業を行います。基礎的な概念等は授業内でも簡潔に説明はするものの、基本的には、各自において適宜復習しなければなりません。
- ④租税法は、憲法、行政法、民法、会社法といった法律科目のみならず、会计学(とりわけ財務会計論)等とも密接に関連しています。これらの科目の内容を十分に理解しておくことが必要です。

7. 授業内容

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 【第1回】 | オリエンテーション
報告および議論の進め方について説明します。 |
| 【第2回】 | 報告および議論 |
| 【第3回】 | 報告および議論 |
| 【第4回】 | 報告および議論 |
| 【第5回】 | 報告および議論 |
| 【第6回】 | 報告および議論 |
| 【第7回】 | 報告および議論 |
| 【第8回】 | 報告および議論 |
| 【第9回】 | 報告および議論 |
| 【第10回】 | 報告および議論 |
| 【第11回】 | 報告および議論 |
| 【第12回】 | 報告および議論 |
| 【第13回】 | 報告および議論 |
| 【第14回】 | 報告および議論 |
| 【第15回】 | 総括…租税法研究の実相(オンライン) |